分科会、研究会等からの報告

分科会（沖縄県外科会）の紹介

沖縄県外科会 会長　大久保　和明

沖縄県医師会医学会分科会「外科会」に対する御支援に感謝申し上げます。

沖縄県外科会についてご紹介申し上げ、県医師会会員の皆様の御協力、ご指導をお願いしたいと思います。

沖縄県外科会は昭和40年（1965年）、44名の外科系の医師を中心に発足いたしました。祖国復帰頃には70名ほどの会員数になっておりましたが、新たな保険制度の導入や急増する救急患者への対応に時間を割かざるをえず、外科会としての活動はそれほど活発には行われなくなっておりました。諸般の医療事情が落ち着きを見せた1980年頃から、学術振興、外科診療水準の向上を目的とした研究会の開催を希望する会員の声があがり、1985年に新たに第1回外科会として定例会が開催されることになりました。会員数も100名を越えるようになり、その後の医療機関・医師数の増加に伴って現在では210名の会員を数えるまでになって参りました。ここ数年は200名前後で停滞しておりますが、研修医を含めた若い外科医の参加を増やすべく努力をしております。ちなみに初期研修医は会費無料でございます。外科という手術手技を伴う職種の形態から、どうしても勤務医が会員の多数を占めてしまいがちになりますが、会員の25％は開業医の先生方でございます。

さて、「沖縄県外科会」の目的は、沖縄県における外科医学、医療の研究をなし、広く地域住民の医療の向上と会員相互の親睦を図ることとされております（沖縄県外科会会則より）。他の分科会同様、定例会等を重ねることによって会員相互の親睦と連携が図られていると考えております。また、最近では医学・医療の進歩の恩恵が地域住民に十分活かされることが求められており、外科領域においてもQOL重視の医療、低侵襲性の手術などの技術革新が進んでおります。これらの技術が地域住民の為になることを願って頑張っているところであります。

沖縄県外科会の活動ですが、会の運営は、約20名の世話人（役員）を中心に行われております。春と秋の年2回の学術集会を基本とし、毎回15～20題の演題発表があります。2回の学術集会のうち1回は、一般演題に加えて全国から著明な講師を招聘した特別講演が行なわれます。この学術集会も世話人の持ち回りという形で担当しております。外科会の学術集会は県内の仲間による集会であり、暖かい議論やアドバイスに満ちた会であります。時には厳しい指摘もありますが、研修医の先生や若手外科医にとっては、九州地方会や全国学会へ登壇する前の準備や練習の良い機会になるものと思います。特別講演も全国の最先端の医療に接する良い機会であり多いに刺激になるものととらえております。

沖縄県医師会との関係では、年2回の沖縄県医学会への参加、特別講演、シンポジウム、ミニレクチャー等のテーマの提案、座長推薦などがございます。国保、社保の保険審査委員の推薦依頼などもあり、適任者の推薦を行っております。

沖縄県外科会は平成11年（1999年）から日本臨床外科学会の沖縄県支部として承認されております。毎年行われる日本臨床外科学会総会の座長として、我々沖縄県外科会会員の中から座長を推薦し、活躍してもらっております。また、診療報酬改定にむけて日本臨床外科学会を通して外保連への要望提出など県支部としての役割を果たしております。さらに沖縄県外科会での発表は、業績として残るよう日本臨床外科学会誌に支部抄録として掲載していただいております。

現在抱える問題としては、前述した会員数増の停滞と開業医の先生方の学術集会への参加が少なくなりつつあることでございます。会員数に関しては若手外科医の参加を促進するためのシンポジウムを開催するなど、また開業医の先生方にも興味を持っていただけるような内容の集会の企画など、今後検討すべき事がいろいろあるかと考えます。

これからも、他科分科会との協力もお願いし、沖縄県における外科医学、医療の発展と地域住民のための医療の向上のため、沖縄県医師会の一分科会として医師会活動を支えてゆこうと思っておりますのでよろしくお願い申し上げます。

分科会、研究会等からの報告

沖縄県整形外科医会だより

沖縄県整形外科医会 会長　知念　弘

皆さんこんにちは。大浜第一病院の知念です。

今回は沖縄県整形外科医会の紹介をさせていただきます。

1996年3月に発刊された沖縄県整形外科医会報創刊号によりますと当会の発足は昭和40年で、初代会長は山田之朗先生で、2代目会長が伊志嶺玄喜先生、3代目会長宮城能久先生、4代目会長大城徹先生、5代目会長新垣敏夫先生6代目会長饒波剛先生、7代目会長本部紹一先生、8代目会長高良宏明先生、9代目会長嘉陽宗俊先生、10代目会長武内正典先生で、私が11代目となります。

会発足当初のメンバーは14～15名程度であったとのことですが、先輩方の御努力のおかげで今や会員数214名を数えるまでになりました。

当会の特徴は大学医局、開業医の先生方、勤務医が非常に仲良く連携を取り合っている点にあるかと思います。最近は組織が大きくなったため、各世代間の年齢差が広がっていることは否めませんが、年中行事になっている「骨と関節の日」の新聞紙上座談会や市民公開講座等に関しては、大学、開業医、勤務医の先生方に万遍なく参加・協力していただいておりますし、世代間の交友を図るためのゴルフコンペも最近再開しております。さらに、学術講演会に関しても、先代の茨木琉球大学名誉教授、現職の金谷琉球大学整形外科教授の御尽力のおかげで、年間約20～30題の講演会が開催され、沖縄県外の地域に出向かなくても、基本的な専門医維持のための単位数は確保できる体制となっております。

この点に関しては各会員の経済的、時間的メリットは多大なものがあると考えております。年中行事としましては、1月に県内の整形外科医による講演会・新年会を開催、4月に沖縄県整形外科医会総会、7月に「骨と関節の日」の打ち合わせ会・理事会、10月に「骨と関節の日」新聞紙上座談会、市民公開講座を開催し、運動器疾患の広報及び啓発活動に力を入れております。

当会の22年度役員は会長が知念弘（私です。）副会長が仲宗根リハビリクリニックの仲宗根聡先生、はえばる北クリニックの安里英樹先生、沖縄協同病院の上原昌義先生で、理事は南部徳洲会病院の金城幸雄先生、琉球大学整形外科の普天間朝上先生、のびのび整形外科の伊志嶺恒彦先生、伊志嶺整形外科の伊志嶺隆先生で顧問が琉球大学整形外科教授の金谷文則先生、監事が上里整形外科の上里博光先生と山城整形外科眼科医院の山城千秋先生となっております。

当会は学術活動にも力を入れておりますが、平成22年度の沖縄県医師会医学会総会での発表は第110回が9題、第111回が11題となっており、さらに新聞紙上への投稿も平成22年度は10題を数えております。

研究会活動も盛んで、沖縄脊椎外科研究会が年に3回、沖縄関節外科研究会も年に2回各病院持ち回りで行われています。その他に肩関節研究会や症例検討会などが多くの診療所、病院で開催されています。

新臨床研修医制度では整形外科は必須とはなっておりませんが、外傷や痛みのプライマリ・ケアとしての整形外科の知識は当然研修医に指導していかなければなりませんし、実際、多くの関連施設で、研修医に対する整形外科プライマリ・ケアを実践・指導しております。

沖縄県整形外科医会はこれからも会員相互の親睦並びに学術活動、若手の育成、教育ならびに運動器疾患の県民への啓発活動等に力を入れていきたいと考えております。

さらに今後は、メタボリックシンドロームとロコモティブシンドローム（運動器症候群）のコラボした講演会、研究会が開催できればと考えておりますので、その際には内科をはじめとした各科の先生方の御協力をよろしくお願いいたします。